

# 合志市の中心で愛をさげぶ

転入者も若者もジモティも、みんながつながる新しい「ふるさと」のかたち

井芹 和幸<sup>1</sup> ・中山 あや<sup>2</sup> ・中元 緑<sup>3</sup> ・岩間 美咲希<sup>4</sup>

<sup>1</sup>合志市役所 企画課

<sup>2</sup>合志市役所 女性・子ども支援課

<sup>3</sup>合志市役所 農政課

<sup>4</sup>合志市役所 学校教育課

市の人口は平成18年の合併当初から増える一方で、コミュニティという側面を見ると地域づくり団体数や自治会加入率などが減少している。また、地区活動への参加も転入者や若い世代は参加率が低い。それは既存コミュニティへの接触が難しいことや時間的制約により参加できないという理由から低下へとつながっている。

そこで、転入者でも気軽に参加しやすい新しいコミュニティの形成、若い世代が楽しく参加できるコミュニティの形成、さらに、既存コミュニティの人たちの知恵や力を借りて、転入者や若い世代と三者で交流ができる取り組みを行い、垣根を越えた、新しい「ふるさと」のかたちを創造し、市民の心と心をつなげていきたい。

## 1. 政策提言の背景

日本全体では人口減少が顕著に進んでいる中で、逆行するように、本市の人口は増加しており、合併当時から約10年間で1万人以上増えている。世帯数にすると、約6,000世帯以上増加している。

一方で、市内にある地域づくり団体数が減少しており、次の世代の担い手がないという声が聞こえてくる。平成21年当時、市内に17の地域づくり団体が存在していたが、令和元年には11団体まで減少し、地域づくり団体の維持が徐々に難しくなっている。また、自治会の加入率の推移を見てみると、平成22年5月末時点で世帯の87%加入していたのが、令和元年9月末時点で82%へと減少している。

自治会の未加入世帯数で見ると平成22年5月末時点の未加入世帯が2,638世帯だったものが、令和元年9月末には4,404世帯と約2,000世帯の未加入世帯が増加している。地域づくり団体、そして自治会という側面から地域のコミュニティを見てみると、明らかに衰退していることが分かる。また、転入してくる人たちは地域行事等への参加率が低く、既存のコミュニティとの繋がりが弱い傾向が見られる。

街並みや景色は時代の変化とともに移り行く中で、温かな「ふるさと」は誰の心にも残り続ける大切なものである。人と人とのつながり、関わり合いを創出し、コミュニティ形成、コミュニティ同士の交流を促すことで、今いる人も、転入してきた人も、年齢も関係なく、皆がつながる、新しい「ふるさと」を創りたい。

## 2. 政策提言によって解決したい課題

### (1) 転入者が既存のコミュニティ活動に参加しにくい

令和元年度第13回合志市のまちづくりをすすめていくための市民意識調査（以下市民意識調査）によると、居住年数10年未満の市民の出身地は県内・県外出身者が9割以上を占めている。居住年数が低いほど、市に所縁のない人が転入していることが分かる。

また、居住年数が少ないほど、地域の活動やボランティア活動などに参加した人の割合が低いという結果も出ている。既存のコミュニティに関する情報を得る機会がないことが、転入者にとって活動に参加するハードルを高めていると考えられる。

出身地と居住年数

		出身地			
		合志市	県内	県外	無回答
居住年数	1年未満	2.6%	63.2%	34.2%	0%
	1～3年未満	2.2%	60.0%	37.8%	0%
	3～5年未満	3.8%	67.9%	28.3%	0%
	5～10年未満	2.7%	72.1%	24.3%	0.9%
	10～20年未満	13.3%	61.7%	25.0%	0%
	20年以上	34.6%	47.0%	18.1%	0.3%
	無回答	25.0%	50.0%	0%	25%

令和元年度第13回合志市のまちづくりをすすめていくための市民意識調査 クロス集計

### 問16 過去1年以内の地域の活動やボランティア活動、NPO活動などへの参加及び今後の参加意向（居住年数別）

	居住年数						
	1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～20年未満	20年以上	無回答
参加経験あり、今後も参加	13.2%	11.1%	20.8%	25.2%	28.5%	34.5%	75.0%
参加経験あり、今後は参加意向なし	0%	2.2%	3.8%	3.6%	5.9%	6.7%	0%
参加経験なし、今後参加	44.7%	46.7%	28.3%	29.7%	29.3%	25.8%	0%
参加経験なし、今後も参加意向なし	42.1%	35.6%	47.2%	39.6%	32.8%	31.5%	25.0%
無回答	0%	4.4%	0%	1.8%	3.5%	1.5%	0%

令和元年度第13回合志市のまちづくりをすすめていくための市民意識調査 単純集計

## (2) 地域との繋がりが薄い若者

世代別での地域活動への参加率を見ると18歳から29歳が一番低い。また「今後も参加意向がない」という項目では最も高く、地域活動に対する関心が低いことが読み取ることができる。

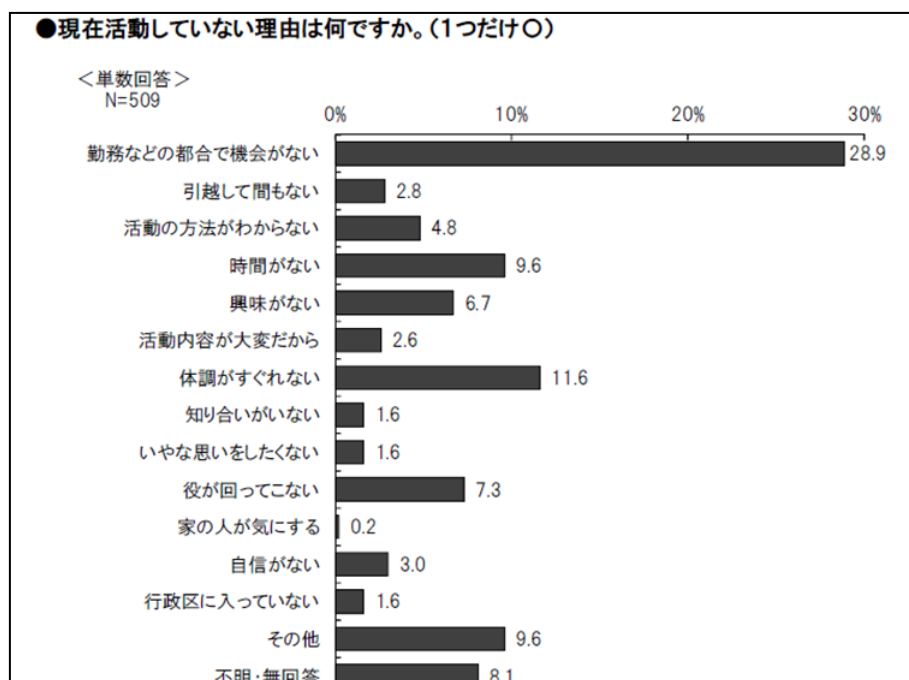
また、第3期合志市地域福祉計画によると地域活動に参加していない理由として、勤務などの都合で機会がないという回答結果が一番多く、三番目には時間がないという結果が出ている。共働き世代の増加や学校などで、昼間の活動に参加できない人が多い。時間的制約という概念自体を取り払った、新たな取り組みが必要となる。

### 問16 過去1年以内の地域の活動やボランティア活動、NPO活動などへの参加及び今後の参加意向（年齢別）

	年齢							
	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳～	無回答
参加経験あり、今後も参加	11.5%	22.5%	29.6%	27.8%	37.5%	35.3%	41.1%	33.3%
参加経験あり、今後は参加意向なし	1.0%	4.5%	5.2%	8.2%	2.8%	7.8%	8.6%	0%
参加経験なし、今後参加	38.5%	33.1%	26.2%	35.4%	35.4%	20.3%	15.2%	0%
参加経験なし、今後も参加意向なし	49.0%	38.8%	38.2%	25.3%	22.2%	34.6%	30.5%	66.7%
無回答	0%	1.1%	0.9%	3.2%	2.1%	2.0%	4.6%	0%

令和元年度第13回合志市のまちづくりをすすめていくための市民意識調査 クロス集計

### 問 現在、行政区や子ども会、老人クラブ（老人会）の活動などをしていない理由



第3期合志市地域福祉計画

### 3. 課題解決の具体的な手法及び重要性・有効性

#### (1) 転入者向けの新しいコミュニティの設立

転入してきた人は、合志市がどのような市で、どのような地域の活動や団体があるのか知らない。まずは知ってもらうために、地域団体や講座、サークルなどの情報を集めたものをSNSにアップして、転入時にQRコードを渡し、気軽に情報を得られる機会を提供する。また、転入者向けの合志市内バスツアーとして、レターバスや巡回バスを活用した市内の主要施設見学、企業見学、農作物収穫体験、モノづくり体験等を企画し、食べて・見て・体験して合志市のことを知ってもらう。

また、「好きなこと」「気になること」という共通点から集まることができる機会をつくる。例えば、市内の飲食店を利用し、パクチーが好きな人が集まる会（パクチー会）を開催し、パクチーを食しながら交流を深める。無線通信の会、アニメの会、スポーツ観戦の会、ハンドメイドの会、地元のお酒を飲む会、星空の会、異業種交流会など、題材はなんでもいい。「○○○好きな人集まれ」とSNSで募集する。場所は、市内の公民館や空き家、飲食店を使うことにより、近所の住民との交流ができ、好きな人同士で地域に小さなコミュニティがたくさん作られていく。選択肢が増え、多くの人が参加できることが、新たな地域のつながりを生み出していく。

#### (2) 若者が地域の中で自分を発信できる場づくり

若者の興味がある講座や、気軽にゲーム感覚で参加できる活動を通して、若者の地域活動に対する関心を高める。マンガミュージアムとコラボした合志市にちなんだLINEスタンプ作り講座や、YouTube動画制作教室を企画する。若者たちがスタンプ作りや動画作りの過程で、地域の人のお話を聞き取材することで、自然と地域の活動に入っていくことができる。専門学校等とコラボして合志市にちなんだゲームを作成しeスポーツ大会を開催することで、若者の集まる場所を作ることができる。

また、講座に参加したいが時間が合わない人のために、動画によるサテライト講座を配信する。例えば、LINEスタンプ講座の動画を配信し、好きな時間に動画を見た人が、合志市にちなんだスタンプを作成し配信。合志市のことを配信することで、SNSを使った地域の活動として参加できる。また、各自治会でSNSを使った回覧板やイベント周知を行うことで、好きな時間に情報を得ることができる。実際、LINEを活用している自治会もある。

#### (3) 既存のコミュニティと若い世代の融合

地元の人と若い世代の人と交流できる機会を増やす。市内在住の人しか行けない農家体験ツアーや、お試しホームステイを企画したり、人材バンクや食の名人、地域づくり団体を講師として講座を開催し、既存のコミュニティとの交流を図る。

### 4. 効果

上記の取り組みにより、転入者同士のコミュニティ、若者同士のコミュニティが新たにでき、既存のコミュニティと新しいコミュニティとの交流もでき、新しい形のコ

コミュニティたくさんができる。誰でも簡単に、好きなときに、好きなことを通じて活動をした結果、自然に人と人がつながってコミュニティが自然と発生し、新しいふるさとの形になっていくことが期待できる。